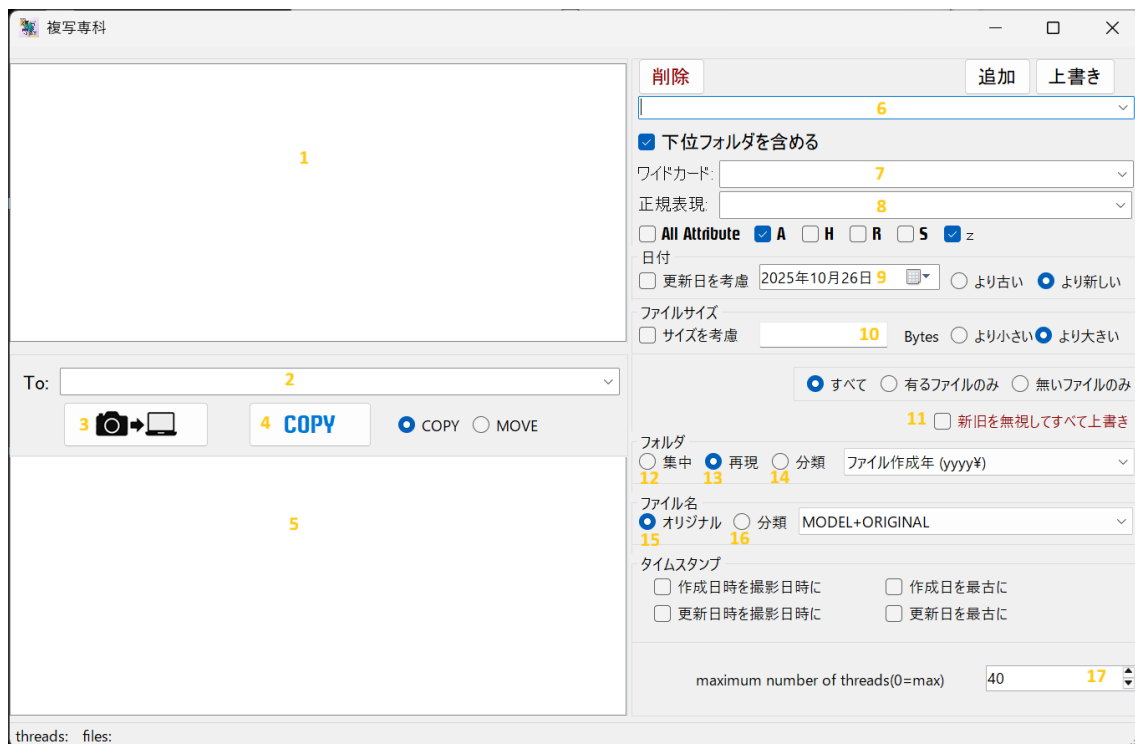


複写専科 取り扱い説明



1. 複写(移動)処理の対象をリストします。ダブルクリックでフォルダ選択ダイアログ、エクスプローラ等からのドラッグアンドドロップにも対応します。チェックを入れたものが処理の対象になります。削除したいときは[DEL]キーで削除できます。
プリセットには含まれません。
2. 複写(移動)処理先を指定します。エリアをクリックすることでフォルダ選択ダイアログが出現し、処理先を選択することができます。キー入力も受け付けます。
3. デジタルカメラを USB などで接続しメモリーカードリーダーなどを介さず直接パソコンにファイルを取り込むときにクリックします。ドライブとして機能するメモリーカードリーダーを使用するときには使用しません。
一度作業フォルダを作成しそこに取り込む形を取ります。「1」に取り込んだファイルがリストされますのでその後「4」をクリックしてください。
この機能はカメラからメモリーを取り出すことなくパソコンに取り込めるので便利ではありますが、高速なパソコンからの連続的なアクセスはデジタルカメラには負担が大きいので

ではないかと推測しています。個人的にはメモリーカードリーダーの使用を推奨します。

4. [COPY][MOVE]の処理を実行します

5. ログを表示します。ダブルクリックでテキストのログファイルを保存するためのダイアログが出現します。

6. プリセットリストを作ることができます。「1」は設定できませんので、汎用的なプリセットが作成できます。通常頻繁に使用するプリセットをセットしておくと便利です(アプリのバージョンアップでリセットされてしまいます)

7. ワイルドカード欄は入力がないければ、無条件に「*」がプリセットされます。一般的な windows のワイルドカードの記述を受け付けます。

8. 正規表現欄は処理対象のフルパス(ドライブレターからファイル名までのすべて)を対象にします。テンポラリファイルのみ対象外にする、特定の拡張子を複数指定してコピーする等の応用が可能です。

ex.

一般的なデジカメのファイルにマッチする正規表現は、

¥.(?i)(TIF?F|JPE?G|CR[23]|NEF|NRW|ARW|SR[2W]|ORF|RAF|RW2|PEF|DNG)\$ です。

一般的な動画ファイルは¥.(?i)(mp4|mov|avi)\$となります。

iPhone のファイルは/¥.(?i)(heif|heic|jpe?g|mov|mp4|m4v|3gp)\$でしょうか。

9. タイムスタンプでの絞り込みは、ある特定時間より前・後のファイルを対象にします。

10. ファイルサイズでの絞り込みは、特定ファイルサイズを判断基準とします。

11. 基本的にファイルのタイムスタンプを見て処理判断しますが、このチェックを入れると、その判断をせずに無条件上書きを行います。

12. 「集中」フォルダを作らず、指定された処理先フォルダにファイルをすべて集めます。

13. 「再現」処理元フォルダの構成を処理先に再現します。

14. 「分類」新たな基準でフォルダを作成してファイルを分類します。Exif から取得した撮影日

や、カメラの機種名をフォルダとして作成し写真を分類することができます。

15. 「オリジナル」元のファイル名をそのまま使用します。

16. 「分類」EXIF を参照してファイル名を変更します。EXIF のないファイルは作成日のみ反映します。写真のファイル名をカメラ名と撮影日を組み合わせたものにするを前提としていますが、ファイル名を変更処理するので、システムファイルを処理の対象にすると不具合を起こすことが考えられますので、設定は慎重に行ってください。

17. プリセットには含まれません。同時実行数の上限を設定することができます。ゼロにすると、システムの判断による限界値で同時処理が行われます。

基本動作

複写専科の基本動作はファイルの複写です。複写先がないファイルは複写し、複写先に同名のファイルがある場合はファイルのタイムスタンプを比較して複写先のファイルが古い場合にのみ上書きします。

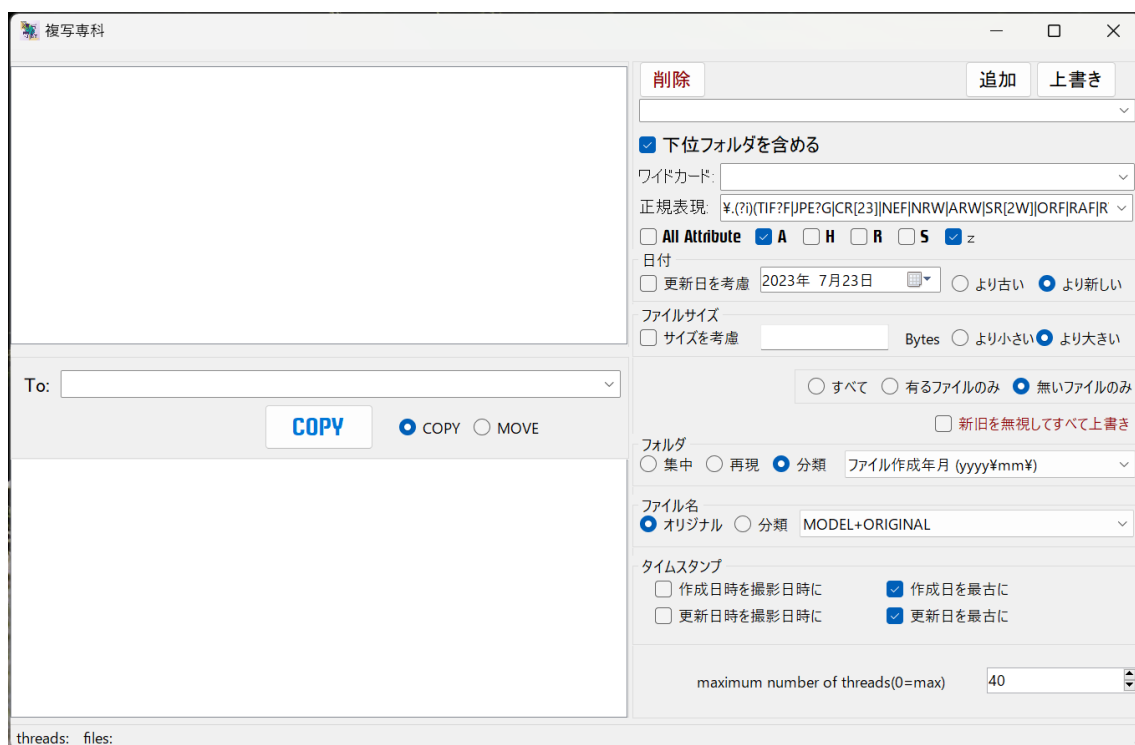
応用動作

複写専科は EXIF を使用したタイムスタンプの変更・ファイル名の変更・フォルダの作成を行うことができます。

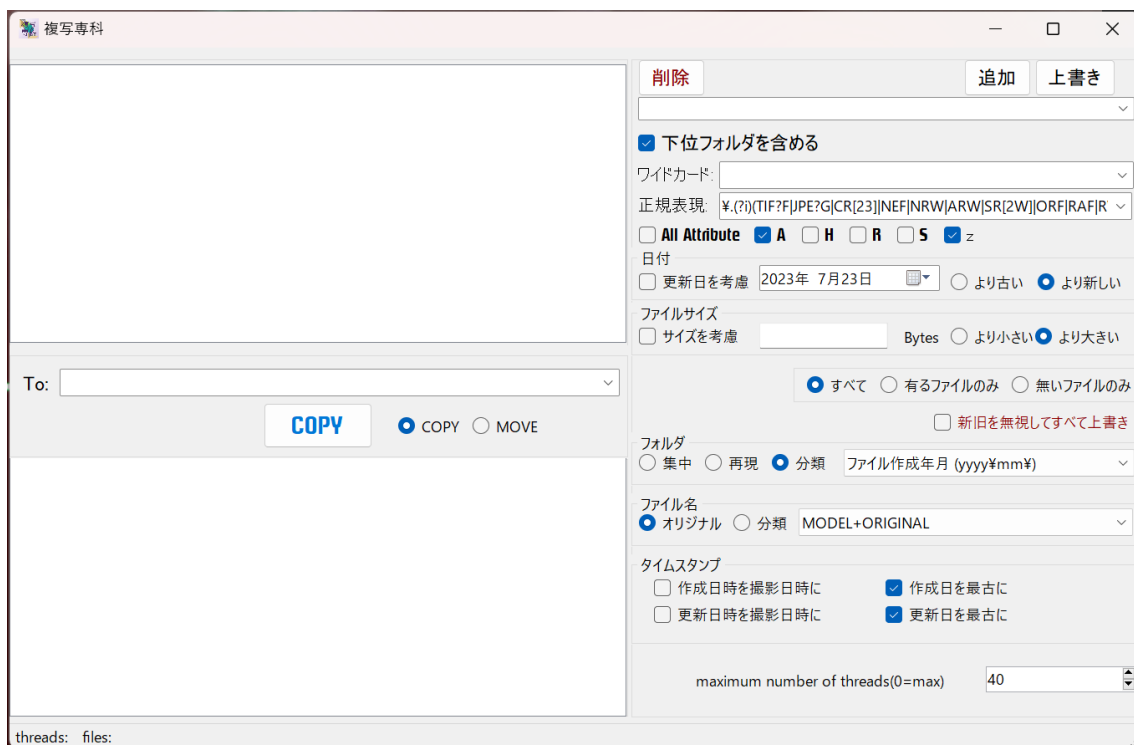
各ファイルの EXIF へのアクセスはそれなりに負荷の高い動作なので、SD カードなどのファイルアクセスに時間のかかるデバイスで、すべてのファイルを対象にするとそれなりに時間がかかってしまいます。そのため、SD カードなどからファイルを複写するときにはお勧めの設定があります。

アレンジしたあとの設定はプリセットとして保存できます(アプリのバージョンアップでリセットされてしまいます)。

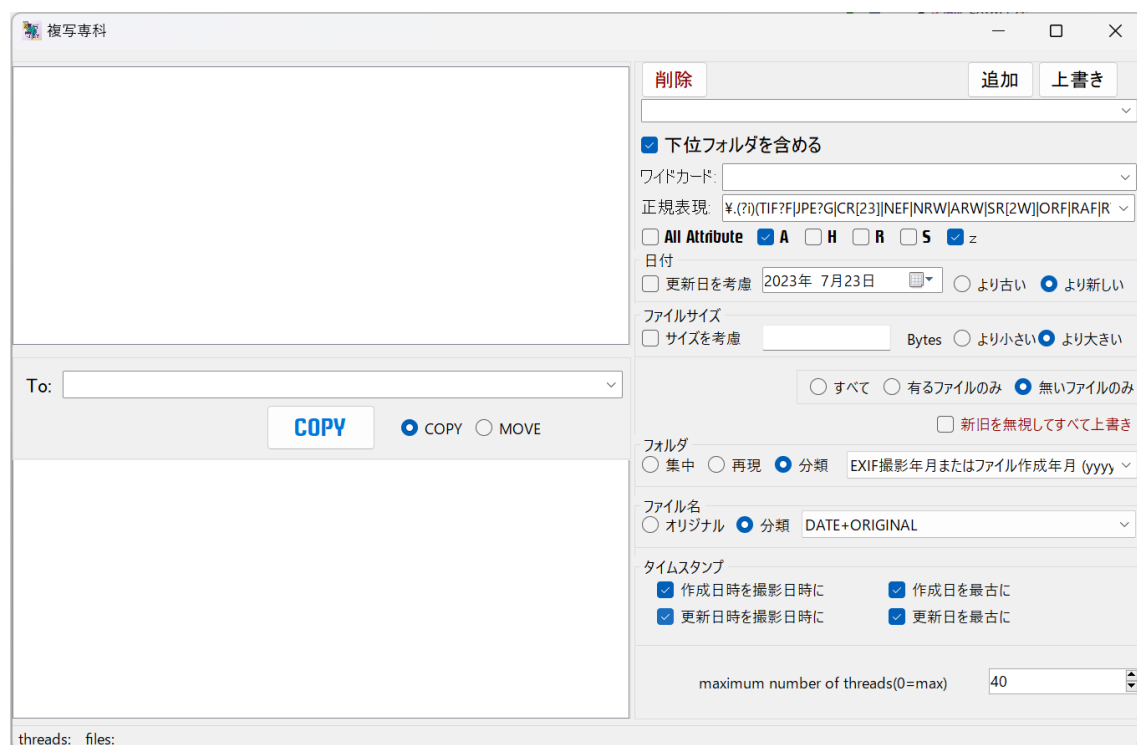
以下の設定では、EXIF を参照しないため、比較的高速に処理が進みます。



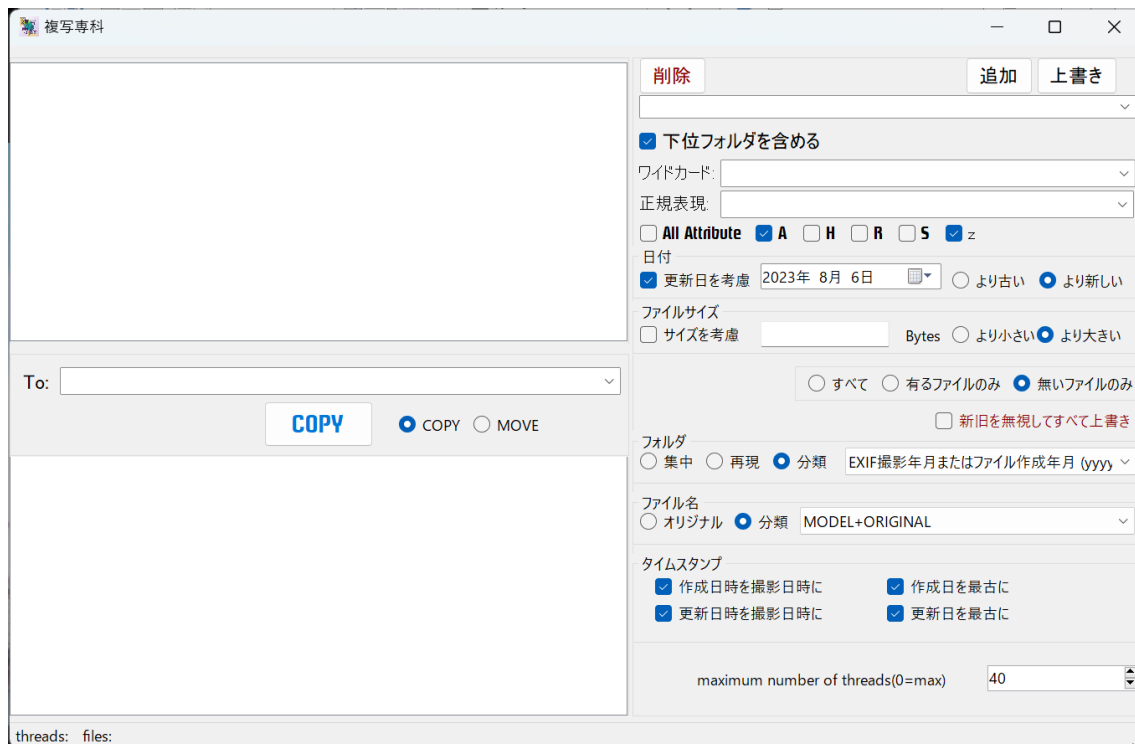
SD カードに保存されている写真データのタイムスタンプによるフォルダを作成し、複写先に存在しないものを複写し、タイムスタンプを SD カードのものと同様に、撮影ファイルの保存時間に整えます。日常的に使用するにはお勧めの設定です。



EXIF にアクセスしてファイル名やフォルダに変更を加えたい場合、すべてのファイルを対象に EXIF アクセスを試みるので、複写判定に相当の時間がかかります。



もしくは、



更新日を考慮にチェックを入れると起動日がプリセットされるので、その日撮影したファイルのみに対象が絞られさらに高速に対象を絞り込むことができます。